

J-POWER “BLUE MISSION 2050”

取り組み詳細についてはP.27～P.33をご覧ください

3つのアクションプラン

J-POWERグループの長期戦略・ロードマップとしてJ-POWER“BLUE MISSION 2050”を策定しています。「CO₂フリー電源の拡大」「電源のゼロエミッション化」「電力ネットワークの安定化・増強」を3つの柱として、それぞれが持つ課題を段階的に解決しながら、カーボンニュートラルと水素社会実現に向けたトランジションを進めていきます。

CO₂フリー電源の拡大

- 再生可能エネルギーのさらなる拡大
- 原子力発電の着実な推進

電源のゼロエミッション化

- 火力発電からCO₂フリー水素発電への転換
- CO₂フリー水素の製造・供給
- CCS

電力ネットワークの安定化・増強

- 電力ネットワークの安定化
- 電力ネットワークの増強

加速性とアップサイクル

実行のプライオリティとして「加速性」と「アップサイクル」を掲げています。加速性については、再生可能エネルギーの新規開発だけでなく、水素発電など調整力の提供や電力ネットワーク増強により、日本全体の再生可能エネルギー拡大を加速させます。また、アップサイクルは、既に保有する経営資源に新技術を適用して高付加価値なものに変換する考えです。具体的には、水力・風力のリプレースや、火力発電所への水素・アンモニア・CCS技術の付加などに取り組みます。

ロードマップとCO₂排出削減目標

2050年のカーボンニュートラル達成に向けた短期・長期の目標として、2025年度および2030年までのグループ国内発電事業*からのCO₂排出量の削減目標を設定しています。

ロードマップは、政府のGX政策（エネルギー基本計画・地球温暖化対策・NDC等）、電力需給状況、電力制度設計、産業発展の進捗等の前提条件に応じて随時更新・見直し・詳細化していきます。

* 削減目標の対象となるJ-POWERグループの国内発電事業からの排出量はScope 1の約8割を占める。

* 再生可能エネルギーの拡大や大間原子力発電所の運転は、当社の火力発電所のCO₂削減には直接寄与しないが、排出原単位の低減や販売先である発電事業者・需要家のCO₂削減に貢献する。

国内発電事業 CO ₂ 排出量からの削減目標 (2013年度比)		2025	2030	2040	2050
		-920万t	-2,250万t -46%	カーボンニュートラルの実現 実質排出ゼロ	
CO ₂ フリー 電源の拡大	再生可能 エネルギー	国内で年間発電電力量40億kWh増大 グローバルに新規開発		さらなる新規開発、既存地点のアップサイクル、 既存資産の最大限の活用	
	原子力	大間原子力発電所建設・運転開始			
電源の ゼロエミッ ション化	国内石炭火力	老朽化したものから 順次フェードアウト	低炭素化の取り組み (バイオマス混焼の拡大、アンモニア混焼の導入等)		
	CCS	事業環境の整備、 設備の設計・建設		圧入・貯留	CO ₂ フリー火力発電の実現 (水素、アンモニア、IGCC+CCS、 バイオマス混焼+CCS等)
	水素発電	国内での実証試験	アップサイクル (既存資産へのガス化炉追加)		
	燃料製造 (CO ₂ フリー水素)	海外での事業化検討	他産業での利活用		
電力 ネットワーク	安定化	水力、火力アップサイクル (既存資産へのガス化炉追加) による負荷追従性向上、分散型エネルギーサービスの拡大			
	増強*	新佐久間周波数変換所等増強完了		電力ネットワーク増強への貢献	
戦略投資		2024-2026年度 3,000億円		2030年度までに 7,000億円	

* 電力ネットワークの増強はJ-POWER送変電が実施

[P.35 キャピタル・アロケーション](#)

[P.43 海外事業の取り組み方針](#)

[P.112 Scope 1-3データ](#)

[P.39 CO₂排出量推移](#)